

## 遷延性・慢性咳嗽の原因診断に鼻汁好酸球検索は有用である —one airway、one disease概念を利用して—

新潟県立柿崎病院

藤森勝也、長澤芳哉、高橋龍一

新潟大学大学院医歯学総合研究科内部環境医学

成田一衛

新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部

鈴木栄一

【背景】喘息患者では、鼻粘膜に好酸球性炎症を起こしている (GagaM, Clin Exp Allergy 2000)。

【目的】咳喘息でも、喘息同様に、鼻炎の症状の有無に関わらず、鼻汁中好酸球がみられる (「咳嗽」Modern Physician2006)。鼻汁中好酸球検索は、咳喘息診断に有用である可能性がある。

【対象と方法】2009年に、遷延性・慢性咳嗽を主訴に受診した患者で、ACE阻害薬を内服しておらず鼻・副鼻腔疾患の既往がなく、胸部X線に異常のない症例を対象にした。鼻汁好酸球検査を必須とし、必要に応じて採血、呼吸機能、喀痰、気道過敏性検査、QUESTやFスケール問診票を行い診断し、治療 ( $\beta 2$ 受容体刺激薬吸入による効果判定を含む) し、最終的に確定診断した。

【結果】32例の遷延性・慢性咳嗽の確定原因は、咳喘息22例、感染後咳嗽5例 (百日咳1例、肺炎マイコプラズマ1例)、胃食道逆流4例、慢性気管支炎1例であった。咳喘息例は全例気道過敏性が亢進し、喀痰好酸球が陽性例である。鼻汁好酸球検査陽性は14例で全例咳喘息であった。全例鼻汁、鼻閉などの鼻症状は伴っていなかった。咳喘息以外の咳嗽では鼻汁好酸球検査は陰性であった。鼻汁好酸球検査の咳喘息診断に対する敏感度63.6%、特異度100%、陽性反応的中率100%、陰性反応的中率55.6%であった。

【まとめ】遷延性・慢性咳嗽の原因診断に鼻汁好酸球検索は有用である。ACE阻害薬を内服しておらず、鼻・副鼻腔疾患の既往がなく胸部X線に異常のない持続する咳嗽で、鼻汁好酸球検査が陽性であれば、咳喘息の可能性が高いと考えられる。